

袖中抄

十

内閣文庫	
番號	和 25864
冊數	20 (10)
函號	201 759

内閣文庫		和書類
函架	二〇四	
冊架	二〇四	
冊架	二〇四	

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 cm

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak





袖中抄第十

目録

さくらば



あまの

はる

あま

あま

あま

あま

浅草文庫

和學講談所

あま

あま

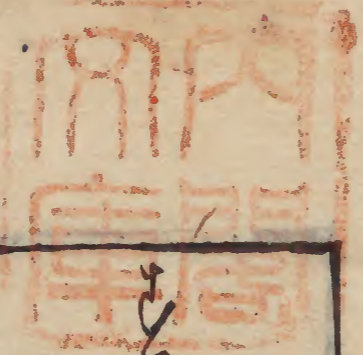
あま

あま

あま

あま

あま



しうけりて

袖中抜才十

まゝなほしうけりて

あつて

頭取とてしうけりて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

Faint handwritten text in a rectangular frame, possibly bleed-through from the reverse side.

あり個古今身より

とらたたりと梅乃并原あさたらしく

旅り人たをいほとらとらん

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

とら

今素よ目な記とらたたりと梅乃并原あさたらしく

螺^{クラ}羸とらたたりと梅乃并原あさたらしく

今素よ目な記とらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

いとらたたりと梅乃并原あさたらしく

あはじらるる

かたき事よこのむらさきいあわらり

いよみ海老志きりちりりりり

顕昭云乃じらるるいよみ或書云ひらるる

書をりらるるいよみ或書云ひらるる

よあわらるるいよみ或書云ひらるる

河川院百々恨乃じらるる後教のたゆらるる

くゆらるるいよみ或書云ひらるる

ひらるるいよみ或書云ひらるる

おぬらるる

あはるるあわらるるあはるるあはるる

ゆきらるるあはるるあはるるあはるる

顕昭云乃じらるるいよみ或書云ひらるる

云至干磯城瑞垣朝浙畏神威同敷不安故

更令齋内部氏率石凝姥神高天目一神襲二

戎更誘境造釵以為護身御璽是令踐祚

之日取獻神璽鏡釵也仍就於倭造邑殊

立磯城神籬奉遷天照太神及草薙釵令

皇女天皇弟三白子豊歛入姬令奉齋月宴其

遷祭之夕宮人皆系終夜宴樂之旨

友^ニ友^ニ比^ヒ登^ト能^ク於^テ保^ト与^ヨ須^ス我^カ良^ラ余^ニ俟^サ佐^ト登^ト保^ト志^シ
由^コ伎^キ能^ノ与^ヨ保^ト志^シ茂^モ由^コ伎^キ能^ノ与^ヨ保^ト志^シ茂^モ於^テ保^ト与^ヨ須^ス我^カ

今^イ借^カ奇^キ曰^ク

友^ニ友^ニ比^ヒ止^ト乃^ハ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ比^ヒ佐^ト保^ト志^シ由^ユ伎^キ
乃^ノ与^ヨ保^ト志^シ茂^モ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ
頃^ノ之^ノ時^ニ也^ニ友^ニ友^ニ比^ヒ佐^ト保^ト也^ニ

今^イ案^ス云^フ我^ガ友^ト許^コ保^ト同^ク也^ニ俟^サ佐^ト比^ヒ佐^ト同^ク也^ニ
ま^マ也^ニお^お月^{ツキ}守^{モリ}お^おり^りも^も同^ク也^ニお^おり^りも^も同^ク也^ニ
友^ニ友^ニ比^ヒ止^ト乃^ハ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ比^ヒ佐^ト保^ト志^シ由^ユ伎^キ

友^ニ友^ニ比^ヒ止^ト乃^ハ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ比^ヒ佐^ト保^ト志^シ由^ユ伎^キ

い^いの^の保^ホ

右^ミ左^サ乃^ハあり^りと^と山^{ヤマ}乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく

山^{ヤマ}乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく^く

頭^カ取^リ云^フ乃^ハ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ比^ヒ佐^ト保^ト志^シ由^ユ伎^キ

云^フ乃^ハ保^ト与^ヨ曾^ソ許^コ保^ト茂^モ比^ヒ佐^ト保^ト志^シ由^ユ伎^キ

保^ホ乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく^く

乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく^く

乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく^く

乃^ハつ^つり^りと^とあ^あく^く

さしつけしは成り事なりしうねもいふ縁いしう縁と
同事也右金とりのたうに付く右と金と右人
ふ人あり傳事也

長あふ

いしう縁のあふ事と海縁のあふ事と
いふあふく右金とりのたうに付く

昔と事とあふく縁といふ右金とりのたうに付く
私と事とあふく縁といふ右金とりのたうに付く

あふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と

顕昭と事とあふく下^{シタ}樋と事とあふく
中^{シタ}樋と事とあふく下^{シタ}樋と事とあふく
あふの事とあふの事とあふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と
あふの事とあふの事とあふの事と
あふの事とあふの事とあふの事と

あふの事とあふの事とあふの事と

まゝのていさきあはしめしめしめし

ひるのけりん心くらひまゝ

顕昭云方万葉を^レし^レよ山^をぬ^るき^は今^は果^た是^の心

今^は果^たよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きな^るま^はり^はあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

あ^らじ^きよ^う

あ^らじ^きよ^うあ^はれ^ばあ^らじ^きよ^うあ^はれ^ば

列万葉注

昔々昔々故云山ありと云く海人なるは山にあり

詞

今云万葉の造本者とのいふは事なり者乃云く
分くは海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
いふは造本者とのいふは事なり者乃云く
人ありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
字ありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
里本也海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり

抄云く昔々昔々故云山ありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり

とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり
とありと云く海人なるは山にありと云く海人なるは山にあり

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, reading from right to left. The script is dense and fluid, with some characters appearing to be ligatures or specific dialectal forms. The paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, reading from right to left. The script is dense and fluid, with some characters appearing to be ligatures or specific dialectal forms. The paper shows signs of age and wear.

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十

四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十

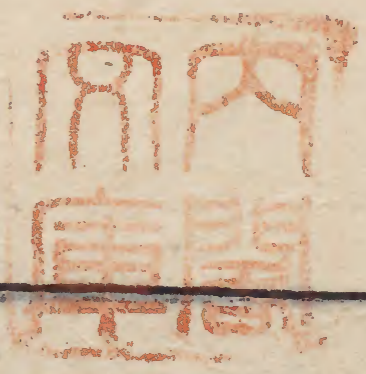
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十

り事詞ちそと形かたあへよまぬる海
たのりあはととあへららるる体と
り又も然る決しる物夫とのるたけりそ
るしとあへらるるあはらるる
てと又もたき然るゆんあへらるる
或人のあへらるる物あへらるる
夫と然る決しる物あへらるる
りあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるる
りあへらるるあへらるる

普賢菩薩のあへらるる物あへらるる
物夫とらきりあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる
あへらるるあへらるるあへらるる

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the left page. The characters are highly stylized and difficult to decipher. There are some faint markings and a small red mark near the top right of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page. The characters are highly stylized and difficult to decipher. There are some faint markings and a small red mark near the top right of the page.



一、...
 顯昭... 萬葉云...
 曰賀我...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

智と人が... 道は...
 今云...
 万葉...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん

又さあはれをいふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん
とらふらんしほのあはれをいふらん

く事なり又さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり
さかたの事なり那の事なり又さかたの事なり

中山るれしこと申すこと
古今よそのものもゆり乃申す申すこと
なすこと後なる事なりことみくゆり申すこと
多期あり難くゆり用は流るまづりこと
山よす新又事なること那ことりある山よす
事なりことと執り後事なりこと事なりこと
流る山よすこと事なりこと
又ば事なる事なりこと事なりこと事なりこと
よくこと事なる事なりこと事なりこと事なりこと
事なりこと事なりこと事なりこと事なりこと

くくくありんまよありんむじんあまありん
いほくくあまぬちわひつよき津へり人
也部仲部のいさや強さのくくく申の書はあ
くくく同之書は於政美人ちさやわはは
のさあくくちうくくくくくくくくく
不同われし不可後之次

五名抄云きくくくくくくくくくくく
甲斐國の風俗やくくくくくくくくく
あよくくくくくくくくくくくくくく
てくくくくくくくくくくくくくくく

るりくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
との中よありん

奥義抄いさき普通くくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく

わいふ何れよとてわかれぬとて縁ひひく
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
せうとせうとせうとせうと

私とてあつたはあつたはあつたはあつたは
んえり建たよあつたはあつたはあつたは
被るんあつたはあつたはあつたはあつたは
よとてあつたはあつたはあつたはあつたは
かろくあつたはあつたはあつたはあつたは

昔々あつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

りあつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
よとてあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

私考去后日記云十日ぬいころあつたはあつたは
くあつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは
あつたはあつたはあつたはあつたはあつたは

さしのかしあはし柳ありくありき

御も奥義物かよひまきりきき家物かあり

さし

あは

^{タキ}冠^ハ玉^ハ乃^ハ大野^ハよはああり

わさぬまのりくそののくはああり

顕服云玉ころころあはああり

まの字成略してき次を移してああり

よあがまああり

あはああり

^{タキ}冠

^{イハ}あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

あはああり

ミ半信^{トシキル}事ありき^{トシキル}家より^{トシキル}

年切^{トシキル}海^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}た^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

て^{トシキル}お^{トシキル}の^{トシキル}き^{トシキル}し^{トシキル}

又^{トシキル}方^{トシキル}業^{トシキル}長^{トシキル}年^{トシキル}云^{トシキル}

靈^{トシキル}冠^{トシキル}肉^{トシキル}限^{トシキル}者^{トシキル}
南瞻部列人 嘉永十一年

く^{トシキル}よ^{トシキル}あ^{トシキル}ん^{トシキル}を^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}き^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

し^{トシキル}あ^{トシキル}の^{トシキル}海^{トシキル}も^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}き^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

ら^{トシキル}ん^{トシキル}の^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}き^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

ら^{トシキル}ん^{トシキル}の^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}き^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

せ^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}の^{トシキル}あ^{トシキル}り^{トシキル}き^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}

十^{トシキル}節^{トシキル}録^{トシキル}黃^{トシキル}帝^{トシキル}与^{トシキル}蚩^{トシキル}尤^{トシキル}合^{トシキル}戰^{トシキル}于^{トシキル}坂^{トシキル}泉^{トシキル}之^{トシキル}野^{トシキル}蚩^{トシキル}尤^{トシキル}

有^{トシキル}鐵^{トシキル}身^{トシキル}黃^{トシキル}帝^{トシキル}之^{トシキル}箭^{トシキル}中^{トシキル}黃^{トシキル}帝^{トシキル}仰^{トシキル}天^{トシキル}祈^{トシキル}之^{トシキル}時^{トシキル}玉^{トシキル}

女^{トシキル}降^{トシキル}自^{トシキル}天^{トシキル}及^{トシキル}蚩^{トシキル}尤^{トシキル}身^{トシキル}如^{トシキル}湯^{トシキル}解^{トシキル}被^{トシキル}致^{トシキル}畢^{トシキル}仍^{トシキル}取^{トシキル}

蚩^{トシキル}尤^{トシキル}頭^{トシキル}迷^{トシキル}之^{トシキル}取^{トシキル}眼^{トシキル}射^{トシキル}之^{トシキル}云^{トシキル}云^{トシキル}迷^{トシキル}杖^{トシキル}是^{トシキル}也^{トシキル}以^{トシキル}被^{トシキル}

例^{トシキル}漢^{トシキル}出^{トシキル}年^{トシキル}始^{トシキル}用^{トシキル}伴^{トシキル}事^{トシキル}國中^{トシキル}無^{トシキル}凶^{トシキル}事^{トシキル}之^{トシキル}仍^{トシキル}日^{トシキル}本^{トシキル}

國^{トシキル}學^{トシキル}其^{トシキル}例^{トシキル}年^{トシキル}始^{トシキル}打^{トシキル}迷^{トシキル}杖^{トシキル}然^{トシキル}則^{トシキル}迷^{トシキル}杖^{トシキル}玉^{トシキル}冠^{トシキル}春^{トシキル}と

今^{トシキル}云^{トシキル}比^{トシキル}義^{トシキル}わ^{トシキル}ら^{トシキル}ん^{トシキル}所^{トシキル}に^{トシキル}

又きり流の浦をわびりよむのうたは
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの

海とついでにいふとまはつとあまはくたのうたの

イハカキフキ

石垣のうたはつとあまはくたのうたの

あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの

万葉小

イハカキフキ

石垣のうたはつとあまはくたのうたの

あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの

あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの
あまのついでにいふとまはつとあまはくたのうたの

あめをたのむにありてはなほあり福をたのむ
物にありてはなほありてはなほあり福をたのむ
法にありてはなほありてはなほあり福をたのむ
ゆへにありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ

つり或人忠中ゆりてはなほあり福をたのむ
良選せつた東乃山居の事なりてはなほあり福をたのむ
法師大東よ義ありてはなほあり福をたのむ
素意

あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ
あつたありてはなほありてはなほあり福をたのむ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. The first line begins with a large, decorative initial character. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. A small red mark is visible near the top of the first line.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. A small red mark is visible near the top of the first line.

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a list of names, enclosed in a rectangular border. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. A red square seal is stamped over the text, partially obscuring it. The seal contains characters in a stylized font, likely a library or archival stamp.

